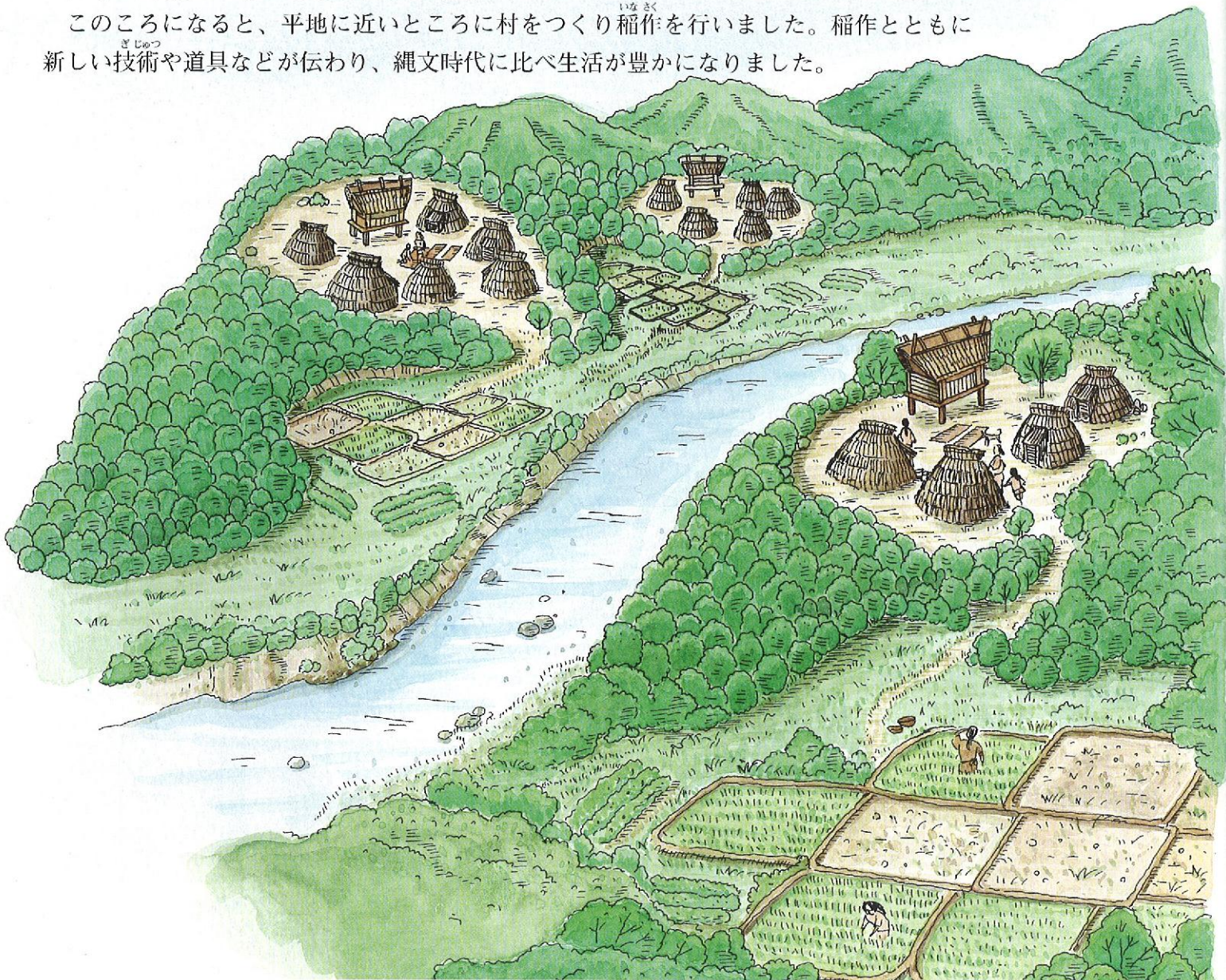


◆米作りが始まったころ

約2,400年前から1,700年前を、弥生時代と呼びます。

このころになると、平地に近いところに村をつくり稲作を行いました。稲作とともに新しい技術や道具などが伝わり、縄文時代に比べ生活が豊かになりました。

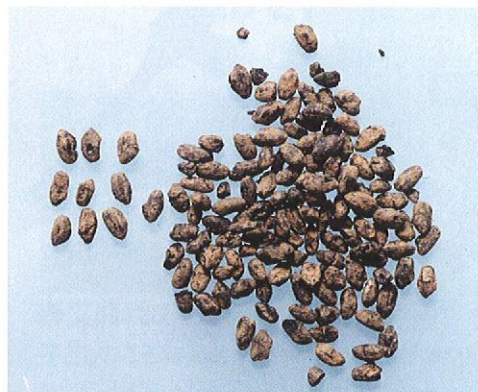


東ノ谷遺跡(長谷)から想像される当時の風景

市内の高田遺跡、東ノ谷遺跡、堂山遺跡からは、弥生時代の米が発見されています。

◆弥生土器

食糧などを入れるつぼ、米などを煮るためのかめ、盛りつけ用の高坏など、使い道によりさまざまな形の土器が作られました。



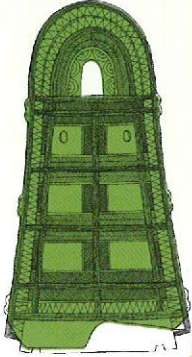
米(高田遺跡)
住居内のつぼに入られていました。



かめ(溝ノ口遺跡)
米などを煮たきました。

◆弥生時代の遺跡分布図

江戸時代、長谷で発見された銅鐸で、祭りに使われました。



つぼ(東原遺跡)
米などをたくわえました。



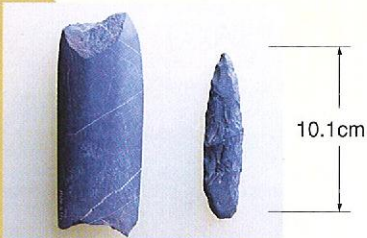
高坏(東原遺跡)
食べ物を盛りました。



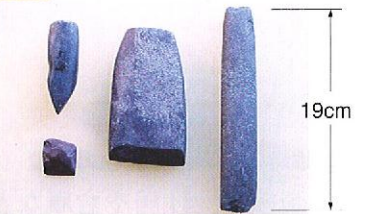
つぼ(横砂遺跡)
米などをたくわえました。



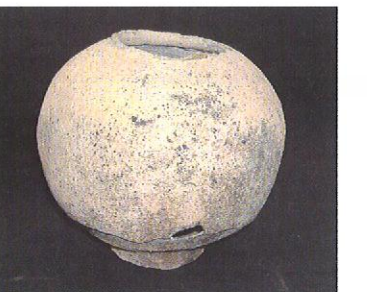
鉄製短剣(原新田遺跡)



石剣(左)・石槍(右)(大六山遺跡)
石で作られた武器



磨製石斧(第一小)
用途に合わせてさまざまな形・大きさの石斧が使われました。



つぼ(中方遺跡)
米などをたくわえました。